



2025年秋の研修会に512名の皆さんが水戸に集まっていたいただき共に学べたことは茨城の大きな力になりました。ありがとうございました。水戸は今借楽園が3000本の梅の花で夢のような景色になっております。今度はぜひ旅行で足を運んでください。お待ちしております。



秋の全国研～茨城水戸・・・よもやま話

〔弁当編〕

茨城で全国実践交流会を開催するにあたり、全国から参加して下さる皆様には有意義で心豊かな時間を過ごしていただきたいという思いで、何度も何度も園長会を開き話し合いを重ねながら一つ一つ検討してきました。

また、少しでも茨城らしさを感じていただきたいという思いから、お弁当についても、園長たちで何度も試食を重ねてきました。お弁当の味はいかがでしたでしょうか？少しでも茨城に来て良かったと感じていただけたら嬉しいです。

〔コンベンション編〕

コンベンションからの補助金は会の運営にとっても役立つものですが、どの市町村でもあったと思っていましたが茨城では、県・水戸・つくばのみ。申し込みの締め切りも1年前。知らなかったとはいえ、期日を過ぎて話を聞きに行きましたが、早急に書類を出して！となんとか考慮していただいたの出発。補助金も市によって違い水戸は水戸市内に宿泊した人数によって違い県は関東圏以外の参加者によってと複雑。書類は何度も書き直しました。手間を取るかお金を取るかでしたが28万ほどの補助金をいただき運営に役立たせることができました。

〔施設編〕

今年の研修会は、水戸駅から徒歩3分の好立地にある水戸駿優教育会館を会場に選びましたが、実際の運営は想定外の困難の連続でした。

施設面では、昭和築の建物のためトイレが和式のみで、参加者の性別比に合わせて急遽男子トイレを女子に開放。さらにエアコンの不調で、ステージ付近の気温が13℃まで下がるという過酷な環境に見舞われました。消防法の制約から会場内での火気が使えず、1日目の苦情を経て、近隣の保育園からブルーヒーターを運び込み、2日目に廊下へ設置することでようやく状況を改善しました。

〔通信編〕

通信環境の整備も難航しました。NTTの配線工事では業者間の連携不足から直前まで進捗が不明となり、不信感を抱えながらの対応となりました。配信業務では、初めてのYouTubeライブ配信に挑み、私物のPCや無料アプリを駆使。本番10分前に配信PCが突然シャットダウンし、URLが変更になるトラブルも発生しましたが、バックアップ用のチャンネル活用や即座の

現場を一人で切り盛りする施設担当者との繊細な交渉や、専門家の助力を得て複雑な音響・映像設定を完遂するなど、人との繋がりに支えられた運営でした。最終的にYouTubeの機能を活かし、トラブルを乗り越えて無事に視聴を届けられたことは、大きな教訓と成果を残しました。

〔文化行事 ～伝えたい思い～〕

茨城では、見澤淑恵さん・嵯峨治彦による「スーホの白い馬」の朗読と馬頭琴の演奏を7年間続けています。



「茨城の子ども達が味わっている文化を、全国の皆さんにも味わってほしい！ 伝えたい！」という思いから、全国研の文化行事を計画しました。そのことを、見澤さんとの事前打合せ時（2024.11 茨城交流園公演の打ち合わせ）に依頼すると、快く承諾して下さい、赤羽茂乃さんの話題にもなりました。赤羽末吉さんが「スーホの白い馬」の絵本に込めた想いを聴いてからの文化行事になったら、どんなに素敵な時間になるだろう、と企画する私たちがワクワクした気持ちになりました。すぐに見澤さんが赤羽さんと連絡を取って下さり、実施できたのです。

全国研実施後のアンケートから、赤羽さんの講演を聴いた後の朗読と演奏が、より深く皆さんの心に響いたことが伝わってきました。

茨城の子ども達との公演の時にも「ひびけ草原のうた」を歌いますが、馬頭琴だけの伴奏で歌ったのは初めてでした。趣がありました。モンゴルの映像（2024.8 そとの保育園の園長がモンゴルに行った時に撮影してきた）も見ることで、モンゴルの雰囲気を感じたことと思います。

全国の皆さんの心に響いた全国研になって良かったです。



年長交流合宿～卒園を祝う会

年長交流合宿が水戸少年自然の家で8園の年長児106名が集まり、2月26日から28日まで2泊3日で、最終日には「卒園を祝う会」を開催しました。

今年は午年ということもあり、『馬』にこだわったプログラムを組み、最後の演目には「荒馬」を太鼓と篠笛に合わせて賑やかに行いました。日立市は35年ほど前から地域に伝統芸能の文化を！の取り組みの1つで、ひたち秋まつりの中で市内の保育園の年長が集まって園ごとの構成で荒馬踊を踊っています。つくしんぼ保育園では小さい時から太鼓と笛の音に目を輝かせて踊り心弾ませるのです。

そのつくしんぼ保育園の職員と子ども達（荒馬座さんから毎年教えてもらっている）に教えてもらい、取り組みました。ギャロップ・2つとび・4つとびで構成。太鼓と笛の音に他の園の年長たちも心わくわく。園に戻ってからも「やりたい」「もっとやりたい」と踊りだしていました。

公開リズムでは「ラッセラーラッセラー、ラッセラーラッセラー！」の掛け声を保護者たちも一体となって盛り上がり響きわたり、また伸び伸びと躍動する子どもたちの姿に感動し、涙を我慢したけど止められなかったと話してくれた保護者もいました。



「花さき山」への挑戦

毎年2月の合宿に行っている夜のお話のつどいの今年の演目は「花さき山」でした。いつもは絵本の画像に合わせて配役を分けてその場で読み聞かせをします。しかし、今年は園長たちの歌やお祭りの笛と太鼓、それぞれの役のセリフと歌を事前に録音して上映しました。子どもたちは食い入るように観ており、最後には「感動した」と涙した子もいました。卒園期の感性が育っている子どもたちの心に響いたお話のつどいでした。



年齢別部会

2025年7月11日(金) 19:00～ たんぼぼ保育園にて

茨城交流園の各年齢部会を行いました。今回の部会は、事前に各園で年齢別(0歳児～年長)に「さくらんぼ坊や」のDVDを見て学び、そこから感じた感想や、今現在保育している中で抱えている悩みなどを出し合い、自由に語り合うという形式で行う部会でした。

さくらさくらんぼの保育を改めて見て学ぶことで、子どもたちの育つ力、大人の声掛けや関わりの方などを振り返り、また互いの園の話や悩みを出し合い、それについて自分の園ではどうしているかなど話し合う中で、自分自身の保育を見直し、一緒に考え今後の保育につなげていく学習会となりました。

熊対策

全国的に熊の事故が発生し今年の交流合宿では例年どおりの山歩きができませんでした。自然豊かな紅葉の山を体験させたいという思いはありましたが、やはり命を守るということの方が最優先と考え出来る事と各園で話し合い、熊対策を行いつつゴンドラや遊覧船の中から楽しんだ一年でした。



森は生きている

昨今、観劇を見る方が段々と減って来ています。色々な声掛け等も行っていますが、世の中の不景気もあってなのかメディアによる情報が溢れすぎていくのかで、企画自体の運営が大きく傾いて来ています。折角の良い物なのですが、厳しい現実には押されています。子どもたちは何時もワクワクしながら見て心に残りますが、今を生きる大人の問題なのでしょうか。文化性が問われている様な気がします。

